

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大分県	九州地方の北東部に位置する大分県は、瀬戸内海（周防灘・伊予灘）に面した地理的特徴を持っています。火山活動の影響により、別府温泉や由布院温泉といった世界的な温泉地を有しており、温泉の源泉数と湧出量ともに日本一を誇ることから「おんせん県」としても知られています。
問2	答え 1 シラス台地	九州南部に広がるこの台地は、過去の巨大噴火による火砕流の堆積物（シラス）や火山灰によって形成されました。水はけが非常に良く、水持ちが悪いため、古くから稲作には不向きとされ、サツマイモや茶などの畑作、あるいは大規模な畜産業が発展する要因となりました。鹿児島島の地形的な特徴を語る上で欠かせない要素です。
問3	答え 1 鹿児島県	鹿児島県はシラス台地が広がる地理的特性から、古くよりサツマイモの栽培や、豚・茶などの生産といった畜産業・畑作が非常に盛んです。第1次産業の就業者割合が全国平均と比べても高く、豊かな農畜産物を原材料とした食料品加工業が地域の製造業の中心を担っているため、製造品出荷額でも食料品が第1位となっています。
問4	答え 1 亜熱帯の気候を生かし、河口や海岸の湿地にはマングローブが広がり、貴重な生態系が見られる。	南西諸島は日本の中でも亜熱帯に属し、温暖で雨が多い気候が特徴です。このような環境下の海岸線や河口付近には、塩分に強いマングローブが自生し、独自の景観を作り出しています。選択枝にあるブナは冷温帯の落葉広葉樹であり、南西諸島の低地には見られません。また、マングローブが育つ場所は泥の堆積する湿地ですが、サンゴ礁は泥の少ない清浄な海域で発達するため、それぞれの分布環境は異なります。
問5	答え 1 水はけが良すぎる火山灰土からなるシラス台地が広く分布しており、稲作よりもサツマイモなどの畑作に適していたから。	鹿児島県には、過去の火山活動による噴出物が堆積してできた「シラス台地」が広がっています。この地質は非常に水はけが良く、稲作に必要な水を保持しにくいという性質があるため、伝統的に水田よりも畑作が盛んになりました。現在では、この広大な土地を利用して、サツマイモや茶などの畑作、そして肉用牛や豚、鶏などの畜産が大規模に行われており、日本の食料供給基地としての役割を担っています。
問6	答え 1 促成栽培（そくせいさいばい）ときゅうり	宮崎平野などの九州南部では、黒潮（日本海流）の影響を受けた温暖な気候を利用し、他の地域よりも収穫時期を早める「促成栽培」が盛んです。ビニールハウスなどの施設栽培によって、冬から春にかけてきゅうりやピーマンなどが多く生産され、野菜が不足する時期の都市部へ供給されています。
問7	答え 1 福岡県	日清戦争で得た賠償金をもとに、筑豊炭田の石炭と中国大陸から輸入する鉄鉱石の利用に便利な福岡県北部に官営八幡製鉄所が建設されました。これが日本の重工業化をけん引し、北九州工業地帯へと発展しました。
問8	答え 1 非常に水はけが良く、地表に水が溜まりにくいいため、古くから畑として利用されている。	シラスは火山灰や軽石が堆積したもので、粒が粗く隙間が多いため、水はけが良すぎるという特徴があります。そのため、稲作に必要な水を溜めておくことが難しく、伝統的にサツマイモや茶などを栽培する畑作が行われてきました。現在は大規模な灌漑（かんがい）施設の整備により、さまざまな農業が行われています。